



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	断酒会にたどりついたあなたへ (3)
Author(s)	眞崎, 睦子
Citation	かがり火, 163, 14-14
Issue Date	2011-05-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62153
Type	article
File Information	kagaribi-3.pdf



前号のこのコラムで、「次号では、『断酒会で一番大切にしていたきたい人』について」と書かせていただきます。『みんな大切』ですか。おっしゃる通りです。私も「断酒会では全員、お一人お一人が主役である」と、各地のみなさまに繰り返してきました。「誰彼を一番大切に」なんて、会則等どこを探してもありません。断酒会の周辺をウロウロしている一人の考えとしてお読みください。

あなたは、断酒会で、誰を一番大切になさっているか。長年の

断酒エッセイ



断酒を経て、会員の模範となっている先輩でしょうか。身に付けられた多くの知識を仲間と共有しようとしてくださる人でしょうか。私もそんなみなさまのことを素晴らしいと思います。しかし、そのような方々は別に、ちょっとした特別に気を配っていただきたい方がいらっしゃるのです。それは、酒害者あるいはそのご家族として、初めて断酒会にいられた方です。

一つ、残念な思い出話を。十年ほど前のことです。息子さんが依存症であるということをやっと認めるに至った、あるお母さん、周囲から

「家族の行動が息子さんを変える」と説得され、病院内の家族の集まりに参加しました。そのうち、自宅からそう遠くない公民館で断酒会家族会が持たれていることを知り、怖々、会場となっている一室のドアを開けました。そのお母さんがとった初めての自発的な行動でした。そこでは、小旅行の直後だったのでしょうか、数名が高らかな笑い声と共に写真をご覧になっていました。開始時間になってもそれは終わらず、思い出

断酒会にたどりついたあなたへ(3)

北海道大学大学院

准教授(教育学) 眞崎 睦子

めて断酒会に出席した日のことをおぼえていらつしやるでしょう。その第一日目の印象が、その人の断酒会への関わり、次のステップにつながります。初めて来られた方に、特別なことをしなければならないというのではありません。あなたが「今日のは初めての方がいらつしやる」、「私も初めての日は不安だった」と意識するだけでおのずと雰囲気は違ってくるはずです。初めて来られた方は「過去のあなた」なのです。

話や笑い声の中、ぽつんと一人残されたというそのお母さんは「もう断酒会には行かない」とおっしゃいました。たった一回で、たった一ヶ所の断酒会で、と思われる方もいらつしやるでしょう。私も、「それは残念な判断」と即座に軽々しく口にしてしまったことを思い出します。しかし、お母さんの拒絶は、そのたった一回、一ヶ所までの、気が遠くなるような時間や経験と無関係ではありませんでした。「同じ苦労をしてきた人たちのに」——誰がこのお気持ちに答えることができるでしょう。あなたも、不安を抱えながら、初

もう一人、大切にしていた方がいらつしやると思います。それは断酒会を一度(あるいは二度、三度)離れた後、再度、断酒会のドアを開けることを決意された方です。断酒会に一度たどりついたなら、断酒の道をまっしぐら、という恵まれた方もいらつしやるかもしれませんが、何度もつまづきながら、その経験を糧に、仲間を支えている方も少なくありません。一度背を向けた場所に再び戻るときは、気がまずさ、「仲間からまた受け入れてもらえるだろうか」という不安は容易に想像できます。断酒会には、「再入会お断り」とい

ったルールはありません。それどころか、仲間のセカンドチャンス(二回目のチャンス)、「やり直し」を応援するのが断酒会です。「依存症」という病気と闘いながらなので、安易に言葉にすることは危険ですが、「やり直し」も「遅いスタート」も決して恥ずかしいことではありません。ただ、やはり、「一日も早く回復への道にたどりつくこと」が酒害者ご本人にとっても周囲のみなさま方にとっても望ましいというのを忘れないでいただきたいと思います。

断酒会から離れてしまったけど、つながっていたい気持ちはあるというあなた、「こんな回復の道もあるさ」と、堂々と断酒会に出かけてみませんか。「ばつが悪い」ですか。もし、あなたがそんな人を受け入れるお立場だったら? ね? 「こんにちは」と自然に声をかけられるでしょう。それが断酒会ですから。あなたに向き合う人は「過去の自分自身」と向き合っているのかもしれない。初めての断酒会で残念な経験をされたあなたも、もしよかったら、少し時間をおいてまた訪ねてみませんか。そのとき初めての方がいらつしやったら、「私も一回めなんですよ」と声をかけてさしあげてください。ではまた『かがり火』のこのページでお目にかかります。